

平成22年度事業評価シート(ハード事業)

NO. 35

評価2 ハード

1 事業名等(Plan 1)

事業名	下水道管きよ整備事業											
所属名	水道環境部下水道課建設維持グループ											
第七次総合計画	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして	分野	5	上・下水道	基本施策	2	生活環境の向上と流域の水質保全を図る	施策	1	下水道施設の整備
予算科目	1	1	1	管きよ建設事業	費	11100	(高山地域公共下水道)管きよ建設	事業				事業
					費			事業				事業
					費			事業				事業
根拠条例・実施要綱・担当部門計画等	高山市下水道条例、高山市下水道条例施行規則、下水道事業整備5箇年計画、事業認可書											
事業の実施主体	<input type="radio"/> 市 <input type="radio"/> 市以外→											
事業の実施方法	<input type="radio"/> 直営 <input type="radio"/> 指定管理 <input type="radio"/> 業務委託 <input type="radio"/> 団体等補助 <input type="radio"/> その他→											

2 事業の目的・概要(Plan 2)

目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的	誰のために(対象)	排水処理区域内の住民及び公共用水域の水質保全の観点から一級河川神通川流域内の住民	受益者数	63,560 人
目的	対象をどういう状態にしたいのか(意図)	住民の生活環境の向上及び公共用水域の水質保全		
概要	事業の実施手法、手順	管きよ未普及地区の管きよ布設工事を行う。スリップ事故防止及び浸入水対策としてマンホール蓋を5箇年計画に準じて更新する。		
概要	事業始期・終期	始期：昭和47年度から	終期：平成31年度まで	設定なし
今年度の改善・改革ポイント	前年度の評価結果、指示事項等を踏まえ記入 効率的な整備を行うために整備手法の見直しを実施して、整備コストの縮減に努めた。			

3 事業費の推移・結果(Do)

区分		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
総合計画計画額(当初)		600,000	500,000	173,000	55,000	15,000
総合計画計画額(計画額)		520,000	420,000	173,000	55,000	15,000
事業費	予算額	274,300	134,500	173,000		
	決算・見込	270,325	129,901			
財源	国庫支出金	82,425	37,900	52,000		
	決算・見込	82,425	37,920			
県支出金	予算額	0	0	0		
	決算・見込	0	0			
地方債	予算額	171,000	34,100	116,200		
	決算・見込	171,000	34,100			
受益者負担	予算額	8,980	9,600	4,800		
	決算・見込	3,187	11,061			
繰入	予算額	6,800	52,900	0		
	決算・見込	8,620	46,820			
繰越金	予算額	5,095	0	0		
	決算・見込	5,093	0			
一般財源	予算額	0	0	0		
	決算・見込	0	0			
H17国勢調査 96,231 人 32,174 世帯		※コスト→行政活動の単位当たり経費算出、変動を経年比較により、効率性評価				
コスト指標	受益者負担率(受益者負担/事業費) 単位 %	1.18	8.51			
	市民1人当たりコスト(事業費/H17人口) 単位 円/人	2,809	1,350			
	1世帯当たりコスト(事業費/H17世帯) 単位 円/世帯	8,402	4,037			
	受益者1人当たりコスト(事業費/指標) 単位 円/人					
↓ その他(空欄にコスト指標名記入、事業費をベースとして単位当たりコストを算出)						
	単位 円/人					
	単位 円/人					

(成果面)

活動・成果指標	活動指標	管きよ整備面積							活動の方向
		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
活動指標	目標値	—	—	1.7ha	1.0ha	72基	65基	73基	→
	実績値	21.3ha	4.3ha						
	達成率	—	—	0	0	0	0	0	
成果指標	目標値	—	—	24,470	24,475	24,486	24,497	24,526	→
	実績値	24,306	24,450						
	達成率	—	—	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

3 事業費の推移・結果(Do)

前年度までの実績(累計)	対象・手段	下水道管渠布設面積	
	事業費	38,326,005 千円	(内容)A=1650.6ha
	受益者負担	3,080,956 千円	(内容)
本年度	対象・手段	上野町地区管渠布設面積 マンホール蓋更新基数	
	事業費	173,000 千円	(内容)A=1.7ha、N=66箇所
	受益者負担	4,800 千円	(内容)

(成果面)

進捗	項目	評価内容(算定式)			進捗率
		整備見込	整備目標	単位	
本年度	整備状況	1.7	1.7	ha	100.00
	事業費状況	決算見込	173,000	千円	
本年度までの累計	整備状況	1,651	2,200	ha	75.0
	事業費状況	累計	38,326,005	千円	93.2
事業の進捗率の考え方	整備戸数/整備区域内全体戸数	=24,450/24,552			
		=99.6%			
進捗結果・理由		管きよの整備が順調に進捗している。平成22年度に上野町地区を整備することで計画の面整備がほぼ完了する。			
<input checked="" type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 未達成		該当項目に「○」表示			

4 分析・評価(Check)

①事業の目的評価(事業の目的・概要に対する妥当性から事業の必要性を評価)	判定理由	第7次総合計画及び下水道事業5箇年計画に位置付けられており、住民から管渠整備の要望も強い。マンホール蓋の老朽化が進んでおり、安全性や浸入水予防のためにも事業を実施する必要がある。	判定	A:非常に高い B:高い C:低い D:非常に低い	目的評価	A	
②コスト面評価(事業の推移、コスト指標の結果からコスト面を評価)	判定理由	浄化槽整備も含めた整備手法の見直しを実施してコスト縮減、費用対効果の増大に努めた。	項目	②コスト面	増加	維持	減少
③成果面評価(活動指標・成果指標から成果面を評価)	判定理由	ほぼ順調に整備率及び水洗化率が上昇している。	③成果面	拡大	維持	減少	○
コスト・成果ポジション			A 第1水準				

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第1水準」	→ I 「良い」	良好な水準を維持	一次評価 主管課 I 判断の理由及び課題問題点 コスト縮減に配慮し、事業効果の高い区域の整備を推進していることから、今後も計画どおり実施する。
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第2水準」	→ II 「やや良い」	「I」の水準に向けた改善が必要	
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第3水準」	→ III 「普通」	「II」の水準に向けた改善が必要	
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第4水準」	→ IV 「やや良くない」	「III」の水準に向けた改善が必要	
目的評価「C・D」もしくはコスト・成果「第5水準」	→ V 「良くない」	「IV」の水準に向けた改善もしくは事業の休止、廃止などの検討が必要	

5 今後の方向性(Action)

評価結果に対する改善提案(下記チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり実施 <input type="checkbox"/> 改善・継続 <input type="checkbox"/> 終期設定 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 完了 計画どおり推進する。	総合評価	コスト	中	成果	中	評価区分	III
次年度実施方針	管きよ未整備地区の整備を実施する。経年劣化の発生しているマンホール蓋の更新を実施する。	「II」以上の水準に向けた改善が必要 整備の完了に向けて今後も計画どおり実施していくことが望まれる。管きよの整備完了後はマンホール蓋の更新に加え、管きよの老朽化対策などの検討が必要となるため、更なるコスト縮減により、計画的な老朽管対策が必要である。						